

広報かわにし

役場	町吉	5	現在	人
西村	村名	1	の	人
川中	川中	1	の	人
所長	人	1	の	人
発行	町	1	の	人
編集	人	1	の	人
印刷	人	1	の	人
定	人	1	の	人
男	計	1	の	人
女	計	1	の	人
計	世	1	の	人
世	帯	1	の	人

町議会報告

台風見舞金支出を議決

九月中に三回目の臨時会

九月三十日に才十二回臨時議会が招集され、去る十六日の才二室戸台風による被害激甚者に対する見舞金贈呈の件ほか五件を議決した。なお、これで九月中に三回目の臨時会が招集されたわけで、これらは台風災害対策の急務議会であったという特別の事情があったとはいえないもの、一カ月に三回の議会が招集されたことは例のないことである。

対象は住居に限定

被害激甚者五十名に見舞金

才二室戸台風の罹災者に対する見舞金については、十九日の急務議会において検討された結果、①見舞金の対象は直接住居の被害のみに限る。②被害の程度に応じてA・B・C三段階ぐらゐに段階をつける。③対象の決定は役場職員において詳細に被害状況を調査して作った資料に基づいて行なう。という方針が定められた。この方針に基づいて提出された調査資料によって審議した結果、A級二十一人(見舞金各一万五千元)B級十七人(五千円)C級八人(二千円)は該当者として認定された。

なお、調査もれがあるとして指摘された面について再調査の結果B級一人、C級四人が追加されたのとおり最終的に決定し、十月三日にそれぞれ見舞金が届けられた。

A 級(二十一人)(木落) 田口 条治 和久井守 丸山米吉 田口 久太郎 山家誠二(小白倉) 江口 行保(大倉) 中条銀平 金子熊司(赤谷) 高橋嘉明(中仙田) 樋口 信次(室島) 川崎常治(田戸) 白井由蔵(越ヶ沢) 小川辰治 川崎 玉吉(藤沢) 茂野長佐(小根岸) 小海量平(高原田) 高橋英治(中島町) 喜多清吉(発電所通) 数藤



川西平野のまん中に、建設のツチ音が高らかにひびく。鉄筋三階の校舎建設が進んでいる。それは、町の未来を告げる音でもあるかのようだ。
川西中学校の建築現場で 撮影 北村 準一

ノ(中仙田)南雲宗夫(高倉)高橋源一郎(仁田)山田仙二(見舞金計二万四千元)
見舞金合計 四十一万四千元

一億円を上回る被害

才十一回急務町議会はさる九月十九日に開催された。この日のヤマは、才二室戸台風によって大きな被害を受けた町の公共施設を早急に復旧すること、罹災者から一日も早く立ち上がってもらいために見舞金を贈呈すること、の二点であったといえる。

午前十一時三分、和久井議長が開会を宣したあと、被害後いち早く現地を一巡した中村町長や田口総務課長から町の被害状況が報告された。このあと、全議員が三台の自動車をかかって、最もはげしかったといわれる木落や、田戸、

学業と家業

ねこの手も借りたという、とれ秋の忙しさは格別である。刈って乾燥し、脱穀して俵にする。静かな農村がいよいよと息つき、目まぐるしく動いている。赤い運動帽の小学生が車を押し、中学生はおとなをまねて稲を刈る。老いも若きも、それぞれの仕事にけんめいだ。この忙しいにつくる農繁期、つい、子どもの教育にまったり無関心で過ごすことはないだろうか。どんなに忙しいさ中でも、ときに、教科書やノートを開いて、学校の話を聞くゆとりはもてないだろうか。いくねんか前になるが長野県の青年と話し合った際、自分の家は、兄弟ふたりを学校に出す資力はないが、ひとりなら働けば何んとかできた。だから、二男は東京へ勉強に行っている。わたしは長男で、耕せば食べられる土地を持っている。だが、弟に土地を分けば共に食べられない。そこで、財産をわけたつもりで自分がけんめいに働いて学資をつくり、遠からず独立する弟が、社会へ出ることにして午後五時四十分分散会した。

町づくり

この議会が終了したあと、町ではさっそく被害状況を調査し、その結果がまとまったので、三十日にふたたび町議会が招集され、前記のように正式な議決を見るに至ったわけである。今次の台風による町が受けた被害総額は一億円をうまわるものと見られている。

て困らないだけの学問を受けさせる義務があると思っている。といっていたのが記憶にある。

昔は、百姓は働きがあればいいから学問はいらないなどという人もいたが、現在は、独立しなければならぬ二、三男のみか、長男さえときには土地だけにすがって生きている世の中である。いろいろな意味で、町の中学生の進学率を調べてみたら、過去十年間の平均は、高校に進学するのは定時制も含めて二十五パーセント程度ではない。県内の平均は五十パーセント近い数字になっているから比較も明らかである。

都会と農村はどうしても学力の差があるという。そんな時、将来は学問も必要なんだからせいはいは学ばせたいという親の心意気が、子どもを励まし、学校での力を伸ばすことにならないだろうか。もちろん、学問は机上のものだけでなく、生活とともに、働きのなかにかこその教育があるから、思いつく間もない時期、ともしばは忙しさにまかせてじゃけんになりがちなのに、子どもの教育について、おとなのゆとりを持つべきだと思ふのである。

第二室戸台風による部落別被害集計表

川西町役場

部 落 名	全 部		半 部		一 部		合 計		復 旧 見 込 額	立 木 被 害			
	戸 数	坪 数	戸 数	坪 数	戸 数	坪 数	戸 数	坪 数		杉	榎	雑 木	
中 島 町	1	30			11	64	12	94	232,000	5.6	14.7	1.0	
山 野 町					19	69	19	69	102,000	16.0	26.5		
電 通 町	2	15	2	20	6	29	10	64	114,000	1.0	10.0	5.0	
水 公 西 組					1	7		7	7,000			3.0	
水 公 東 組					1	8	1	8	5,000		1.0		
下 郎 平 集 寺					5	34	5	34	34,000	67.5	23.5	14.5	
上 郎 青 寺					2	17	2	17	16,000	13.0	11.0		
中 央 町	1	7			6	63	6	63	82,000	26.0	5.5	7.0	
中 田 町					7	38	8	45	99,600	10.0	49.0	26.0	
神 社 町	2	11			18	84	18	84	84,000	31.0	8.0	19.0	
学 校 町					9	33	11	44	42,500		15.2	0.2	
中 屋 敷 町					14	46	14	46	33,000	8.0	15.0		
寺 島 町			1	10	9	62	9	62	147,600	8.5	4.4	19.5	
木 島 町					15	72	16	82	141,000	88.0	5.5	20.0	
木 島 公 舎					13	57	13	57	54,500	4.0			
沖 立 友			2	30	2	2	2	2	2,000				
伊 田 友	1	10	2	29	39	269	41	299	348,500	195.6	44.5	95.0	
高 原 田			3	44	43	249	46	288	577,000	309.5	26.8	26.0	
坪 山 山			3	44	10	48	13	92	435,100	70.5	17.0	25.0	
高 原 山					26	118	26	118	119,500	92.5	49.5	46.0	
鶴 吉 町			1	12	10	45	11	57	106,500	64.5	8.2	79.0	
鶴 吉 町					3	12	3	12	6,800	1.5			
平 見 町					1	10	1	10	10,000	2.0	2.0	3.0	
千 手 地 区 計	7	73	11	146	264	1,430	282	1,648	2,799,900	1008.7	342.9	386.2	
上 野 地 区 計	3	13	2	9	51	396	56	418	657,400	249.6	32.0	61.9	
新 町 新 田	4	69			42	188	46	257	315,500	388.3	30.8	83.8	
元 町	4	21			20	161	24	182	283,800	86.7	17.0	38.3	
下 平 新 田				2	22	77	23	79	166,000	183.5	81.5	53.0	
三 小 田			1	10	14	45	14	45	57,000	58.0	43.5	46.5	
小 田 代			3	32	3	44	4	54	74,000	420.0		11.0	
星 名 新 田					5	37	8	69	69,500	16.0	25.0	5.0	
上 野 地 区 計	11	303	7	53	2	9	2	3	25,000	20.0	6.0	5.0	
木 寺 嶺 辛	17	384	14	283	159	951	177	1,107	1,628,200	1402.1	235.8	304.5	
寺 嶺 辛					52	292	83	959	4,948,500	373.0	141.2	416.0	
仁 田			3	25	6	37	6	37	98,000	12.0	27.0	5.0	
野 原 田	1	40	11	91	3	11	3	11	12,500	16.0	13.8	2.7	
原 田			2	11	72	387	75	412	468,400	194.3	166.0	60.2	
根 深 原			1	8	91	30	113	42	244	499,400	170.4	67.2	58.3
下 地 区 計					3	6	5	17	143,000	85.5	57.7	26.7	
橋 地 区 計	18	424	31	418	11	63	12	71	96,500	49.0	60.7	26.8	
中 仙 田					4	34	4	34	34,000	72.0	19.0	6.0	
京 島 山	2	50	2	33	181	943	230	1,785	6,300,300	972.2	552.6	601.7	
桐 山	1	20			38	311	38	344	592,700	9.5	50.5	54.1	
小 高 倉			7	55	51	271	53	321	576,900	335.0	114.5	43.0	
高 倉					8	64	9	84	92,000	84.5	85.0	27.0	
藤 谷 沢	2	15			14	48	21	103	136,500	132.0	19.0	257.0	
藤 谷 沢	1	54			34	177	39	217	186,350	78.0	33.0	131.0	
田 戸 沢			15	260	10	56	12	71	274,000	55.0	7.0	45.0	
越 谷 沢			1	70	27	325	43	639	1,049,500	49.0	74.8	28.5	
赤 岩 谷			3	37	1	30	2	100	270,000	10.0			
大 白 倉	4	56	2	51	41	300	44	397	442,600	188.0	35.5	60.0	
大 白 倉	2	41	4	110	54	320	54	320	340,450	161.7	56.1	65.5	
仙 田 地 区 計	12	296	40	674	2	51	2	51	120,000	80.4	27.2	46.0	
合 計	48	858	89	1,230	17	108	22	182	497,800	175.5	78.0	51.5	
合 計					317	2,120	369	3,030	5,146,300	1468.1	586.6	836.6	
合 計					922	5,444	1,051	7,570	15,874,700	4651.1	1717.3	2129.0	

今次18号台風による災害復旧対策(案)

1. 公共建物について

番 号	被害建物の所在	名 称	被害箇所と坪数又は数量	復旧見積額	復旧工事執行方法
1	仙 田	赤岩小学校	校舎屋根アタン葺160坪 屋根瓦アタン葺8坪 垂木広小放腐内しておりアタン飛散す	334,030円	全額町費負担 補入夫は地元早急に執行 但し10万円以上は3分の2国庫補助あり
2	仙 田	中仙田小学校	屋根瓦アタン葺40坪飛散 窓ガラス4枚破損 物置壁板破損3坪	51,216	以下 同 上
3	仙 田	仙田小学校	教室屋根アタン葺12坪飛散 屋根瓦50枚破損 ガラス50枚	16,000	
4	仙 田	白倉校	教室アタン葺屋根5坪浮き上がる。	3,500	
5	橋	橋中学校	ガラス破損20枚	900	
6	上 野	上野小学校	ろう下アタン飛散 屋根瓦破損 便所空気抜き 屋根飛散 ガラス10枚破損	3,800	
7	千 手	千手小学校	プールのさく4分の1破損 ガラス破損13枚	4,700	
8	千 手	川西中学校 千手校舎	校舎壁板アタン3坪 物置ナメコ2枚	3,000	
9	上 野	川西中学校 上野校舎	ろうろう下アタン屋根飛散 ガラス2枚 便所壁板 アタン屋根破損	3,000	
10	仙 田	大倉雪中分校	屋根アタン葺20坪飛散	10,460	
11	仙 田	霧谷雪中分校	屋根アタン葺50坪飛散 垂木も飛散広小放	117,069	
12	仙 田	中仙田教員住宅	屋根木羽葺くし4間 雨戸2枚 ガラス戸2枚破損	5,000	
13	仙 田	田戸教員住宅	アタン屋根3坪飛散	3,000	
14	仙 田	赤岩教員住宅	壁脱落4坪 屋根破損	5,000	
15	仙 田	白倉教員住宅	アタン屋根5坪浮上る。	3,500	
16	橋	橋教員住宅	屋根アタン3坪飛散	3,000	
17	千 手	中央公民館	木羽葺屋根4坪半	2,400	
18	仙 田	越ヶ沢消防庫	アタン葺1棟全壊(傾転)	10,000	
19	橋	木落消防庫		7,000	
20	橋	橋診療所	第1病棟屋根8坪 第2病棟屋根18坪 看護婦 宿舎18坪 窓ガラス外	50,000	全額町費負担 補入夫は地元
21	上 野	農業センター	午飯機室大ガラス及び戸破損 便所小ガラス1枚破損 土じょう検査室ガラス1	4,830	同 上
22	千 手	坂場田守舎	アタン葺屋根5坪飛散	1,500	
23	仙 田	仙田中学校		16,186	
合 計				658,691	

川西中の建築

全校の完成は明後年

ことしは鉄筋校舎の半分を

川西中学校の建築が快調に発足した。この新校舎の規模を申し述べるならば、鉄筋三階建て、教室は十五(特別教室をふくむ)校長室、職員室、教材室、放送室のほか、付属として玄関と生徒昇降口が建築される。延坪数にして五百九十五坪である。基準坪数が一名当たり一、一八坪で若干狭いことになるが、これは鉄筋だけの比較であって、今後上野と千手の両校舎が移築される坪数を加えれば基準坪数をはるかに越す余裕たっぷりの校舎となる。校地の南側に鉄筋校舎、北側に移築される木造校舎、この両校舎を結ぶ屋内体操場の約二百二十坪が東側にできると、川西町学校教育の中心校にふさわしい校舎が出現する。

ところで、全校舎の建築は三年計画であって、ことしは鉄筋校舎の半分、校長室、職員室、教室七、ろくか、階段、便所などの二百九十一坪をつくることになっている。三十七年度は、この残り半分に、玄関、生徒昇降口がそれぞれ鉄筋として建築される。屋体の建築がやはり三十七年度で、上野千手両校舎の移築が三十八年度とになっていたが、この計画は場合により変更されるかもしれない。これは、学ぶべき教室を工事のためになくすることができないからである。資金は特別会計で、ことしの予算が二千四百万円、本年度二

工事施工者の山田組も、鋭意工事のそく進にまい進中であるが、全国的建築ブームで、この土地も人手不足で入夫が思うように集まらず、基礎コンクリート打ちには連日夜働をしたようなありさまであった。現場には高さ七十尺の工事用タワーがそびえ、見張り、資材倉庫等が並び、まく板などの材料が山と積まれている。本年度分の資材は鉄筋六十五トン、セメント二百三十トン、砂利七百立方メートル、砂五百五十立方メートルが必要だそう。全校舎となると驚くべき物量になると思う。

今後工事がずつと続けられ、ともすれば雪季にはいつてもすめられるわけだが、わたくしたちの中学校を建築する工事に、町をあげて協力願いたいものである。

年金問答

問

収獲の秋がきましたので、保険料の前納をしたいと思っておりますが、その手続きの方法と、どの位割引になるか教えてください。

答

保険料の前納は、一年を単位として一年以上十年までの希望する期間、あるいは六十才までの全期間分をまとめて納める場合同様にあります。

納入の方法は「国民年金保険料前納申込書」により、あらかじめ申し込みをしていただきます。県より「納付書」が送付されますので、その納付書によって銀行(才四銀行、北越銀行)に納めていただきます。(役場でも受け取ります)前納の申し込みには、申込

話し合いの広場

町の声

わたくしたちの部落に、ここ数年の宿望であった「話し合いの広場」をもつことができたのは、さる九月十三日夜のことです。九月十三日夜のことです。話し合いの広場は、子どもを連れたアネサまで集まり、あの広い公民館がいっぱいで二重の輪をつくりました。

地元選出の議員から町議会の報告をきいたあと、今後の運営や部落のありかたなどについて夜のふけるまで話し合いました。が、女性側からも活発な発言があり、夫婦で出席された方も幾組か

戸籍の窓から

うが声—御すこやかに

- | | | |
|-------|-------|-----|
| 杉山真紀子 | 茂 長女 | 学校町 |
| 柳 隆文 | 藤作二男 | 学校町 |
| 柄沢 和秋 | 照和二男 | 沖立 |
| 星名 一弘 | 徳一長男 | 沖立 |
| 黒島 信一 | 善一長男 | 伊友 |
| 市川 正美 | 郡平三男 | 平見 |
| 押木 幸宏 | 一雄長男 | 元町 |
| 石沢 文江 | 日二次長女 | 上野 |
| 富井 幸子 | 宏行長女 | 上野 |
| 田中恵美子 | 義勝長女 | 下原 |
| 田中 晴子 | 春吉長女 | 仁田 |
| 田中 充子 | 基長女 | 小白倉 |
| 登坂 明子 | 作一長女 | 赤谷 |
| 北畑 浩紀 | 仲司長男 | 小白倉 |
| 高橋 朝子 | 佐保長女 | 高倉 |
| 高橋 洋子 | 宋二女 | 高倉 |

昇天—御めい福を祈る

- | | |
|-------|--------|
| 中条 サヨ | 大倉 七〇 |
| 小川 政吉 | 越ヶ沢 六三 |
| 田口ハルノ | 木 落 五四 |
| 田村 チト | 木 落 八三 |
| 佐藤 正二 | 永 公 四八 |
| 渡辺 カヨ | 鶴 吉 八五 |
| 貴田巳之作 | 伊 友 七五 |
- たかさご—御円満に
- | | |
|-----------|-------|
| ◎新婦 高橋 岩男 | 坪山 |
| ◎新婦 秋山カズイ | 北新田から |
| ◎新婦 丸山三郎 | 木島 |
| ◎新婦 佐藤ミツ子 | 福島県から |
| ◎新婦 山田 正友 | 仁田 |
| ◎新婦 綱 アイ | 上野井から |
| ◎新婦 西方 奨 | 中島町 |
| ◎新婦 金子 トヨ | 津南町から |

ふるさと

高橋忠一氏に 厚生大臣賞

十月二日に行なわれた全国環境衛生大会の席上、環境衛生推進功勞者として、本町公衆衛生推進委員会会長の高橋忠一氏が、厚生大臣賞を受賞しました。

受賞者は、全国で六十七名、本県では三名の受賞者の中に選ばれたわけですが、同氏は町民各位におなじみのおり、あるときは持ち前の健脚を利し、夜間は自転車でも遠隔地にまで出向かい、町の公衆衛生推進に町内くまなくかけまわった、その献身的な努力が認められたものです。

なお、七月十四日の県大会でも県知事表彰を受賞しています。

スポーツ振興法と「スポーツの日」について

去る五月十八日に開かれた国会は、長い間国民全部が願っていたスポーツ振興法の方場一致で成立した記念すべき日であった。これはスポーツの振興に関する施策の基本を明らかにし、国民の心身の健全な発達と明るく豊かな国民生活形成に寄与させようとするものであつて意義のある法律だとよろこんでいる。そして毎年十月の第一土曜日を「スポーツの日」として設けられたことも国がいかに国民の健康に大きな関心をもっているかがうかがわれる。わたくしどももこれを機会に自分の健康に注意し明るい生活を築くためにみんなて努力したいものである。

注目を集める農業センター

第三回新潟県農業研修施設運営協議会

新しい村づくりの一環として、農村青年の研修を目的とする農業文化センターが、日ごろ自主的にそれぞれの地域の特殊性を生かして運営されているが、今日の変わりつつある社会においては、しんこくな幾多の問題点を取りあげられてきている。

そこで現在、県内の農業研修施設は二十八カ町村になっているがこれらの理事者や関係者が当町の農業センターにおいて、十二、十三日、一泊二日の日程により、あらゆる角度から管理、運営について協議、研修がなされ、今後の農村青年教育の方向づけを考ふるものであり、この才三回目に非常な期待が寄せられている。

今回の主任講師は、新潟日報論説委員の中沢惣吉先生で「農村交ほうにおける現在と将来について」の講演を中心に、才一分科会「農業研修施設」のあり方について「才二分科会」「農民教育活動の総合対策について」「才三分科会」「農業研修施設運営機構の確立について」の各分科会ごとに研究、討議が行なわれ、さらにそれらで抽出された問題点を持ちより全体討議にかけ、問題の究め及び解決方法が真げんに考えられる仕組になっている。このほか県農業改良課、農政課、農業会議からそれぞれ指導助言をお願いし、その成果をより高めるためにいろいろ工夫されていることも特記されよう。

現在川西町にもラジオ農業学校が開設され青年学級、青年団等とともに農村青年のあらゆる問題に勤労の余暇を利用して学習しているの、これらに与える影響力も又大きいものがあると思われるが、行政の面からながめてみると社会教育の場との連携をどのようにしていくか、また盛んにいわれている総合社会教育計画の中にとり結びつけていくか、というような問題は今後十分研究し、推進していかねばならない大きな課題であり、またいまの農村青年教育の問題こそあすといわすきょうよりみんなが取り組まなければならぬものではないだろうか。

県下の研修施設設置状況

- 一、北浦原豊浦村農業文化センター
- 二、北浦原聖籠村農業研修会館
- 三、北浦原紫雲寺町農業センター
- 四、北浦原水原町青年研修所
- 五、北浦原安田町青年研修所
- 六、北浦原分田町青年研修所
- 七、新潟市四ヶ字青年研修所
- 八、新潟市農業センター
- 九、新潟市青年研修所
- 十、岩船郡朝日村農業研修会館
- 十一、中頸城郡清里村青年研修所
- 十二、中頸城郡三和村青年研修所
- 十三、中頸城郡堀城村青年研修所
- 十四、中浦原郡村松農業センター
- 十五、中浦原郡横越村青年研修所

橘中(女子)準優勝

県中学校卓球大会

去る十月一日、新潟市に開催された県下中学校卓球大会に中越地区代表の橘中学校(女子)は、日ごろの猛練習を発揮し、各大会の予選を見事通過し、強敵長岡中学と決勝戦で善戦したがおしくも敗れ準優勝のりっぱな成績を収めた。

郡市青年研修会

中魚沼郡十日町市社会教育振興会では、十月二十八日・二十九日の二日間、川西町農業センターで青年研修会を開く。青年活動の現在の意義をつかみ、今後の団体活動を推進するためのよきリーダーとなる青年を養成することが目的管内の市町村教委から選定された者約五十名が参加する。

育林コンクールの開催

ふるつて参加申し込みを

山に木を植えることは、公共的にも大切なことですが、これが何年かあとなつてりっぱな成果を生むためには、やはり日ごろの手入れが一番大切です。

このたび、中魚沼郡、市、合同で次の要領で育林コンクールを開催することになりました。みなさんの個人の山や、部落の山、学校林等でありっぱな杉林、手入れのよい杉林がありましたら、囑託員さんか、農家組合長さんを通じて役場、産業課へ参加申し込みをしてください。

記

- 一、申し込み期限 昭和三十六年十月十四日まで
- 二、対象造林地 昭和三十四年以前の杉造林地面積 個人 十アール以上 部落等 三十アール以上
- 三、作業区分 下刈 枝打 除伐 間伐
- 四、入賞点数 一等 一点 二等 二点 三等 三点 四等 四点
- 計 十 点
- 五、表彰式 十一月十五日、入賞者の表彰式を行ないます。
- 六、その他 賞品は知事賞他多数

社会係より 出かせぎ案内

不明の点は、産業課農林係へ

- ①みかん取り、農耕の男女 四十五才まで 食付き男一万二千五百女一万一千 往復旅費支給 月二回休 出発十月末予定三月まで (静岡、神奈川)
- ②紡績女工 三十才位まで 日給三五〇から四〇〇円 四月ごろまで (日毛、日東紡 大和紡 呉羽 紡 東洋紡 大東紡ほか九社)
- ③日本通運冬季従業員(荷扱人) 十一月から三月まで 月一万六千〜二万三千 (都内各日通支店)
- ④荷造、雑役夫 四十才位までの男 十月から三月まで 月二万円 選考未定 (東京出版)
- ⑤ウエイトレス 三十才までの女 十月から四月まで 月四回休 月一万二千 (東京三平食堂)
- ⑥工員、五十才までの男 十月より三月まで 日四〇〇円 通年希望者には新採用の募集もあります (長岡市、北越電化KK)
- ⑦寒天製造工 十二月から三月まで (長野県茅野)

かわにし 俳壇 太田白南風選 大倉 金子 洋石 サルビヤの紅の濃き日のつづく 秋の花色濃し露の深々と 元町 金子 鉄平 街灯に入待ってをりかぶと虫 越ヶ沢 小川 辰治 植え終りたる葉牡丹に秋の風 秋まつりの原句絵の面白しと言 い切つてしまわずにそれぞれ絵を現わすことよって面白さは彷彿する。緑風氏には個性があつて良いが一点に集中すること肝要。

世の中から犯罪者をなくし、明るい社会を作るため活躍している保護司会活動資金として八月より募金を実施した。社会を明るくする運動、封筒募金は、目標額二万七千円を越え、三万一千四百十五円的好成绩を納めた。これは町民各位の明るい町づくり、住みよい社会をつくる心あらわれと、関係者は深く感謝している。

編集後記 ※七十才を過ぎる老人がはじめて経験する大風とか。才二室戸台風は町にも大きな被害をおよぼしました。被害をうけられただかたがたに心からお見舞いを申し上げ、一日も早く回復されんことを祈つてやみません。

※きょうも供出する人たちが農協の前は新しい俵をつんだ耕うん機が長だの列でした。荷車がリヤカーになり、またこの三三年目をみはるほど耕うん機の数がふえ時代の波を強く感じさせている。稲刈りの人手不足も問題になっており好むと好まざるにかかわらず新しい農業態勢と機械化があすの川西町の前進を大きく約束しているのではないのでしょうか。